

■7月16日

IHI、藻を原料、航空機向けバイオ燃料量産

IHIは藻を原料とする航空機向けバイオ燃料を量産する。現在のバイオ燃料の平均価格の10分の1程度で2018年にも東南アジアなどで生産を始める。航空機向け石油燃料は需要増加で価格が上昇、燃料費は運航コストの4割を占めるなど航空会社の大きな負担となっている。将来は自動車向けにも用途を広げる考えだという。

日経によると、米ボーイングによれば、ジェット燃料の価格は00年以降に年率平均12%のペースで上昇し現在1リットルあたり100円弱。

今後20年で世界の運航機数は現在の2倍近い約3万5000機になる見通し。バイオ燃料は業界基準でジェット燃料に最大5割まで混ぜて使えるため、コストが下がれば航空会社の収益改善につながり二酸化炭素(CO2)の排出も抑えられる。欧州エアバスは低価格化で30年にジェット燃料の3割がバイオ燃料になると予測する。

(日経)7/15

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD14004_U3A710C1MM8000?df=2&dg=1 (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD14004_U3A710C1MM8000?df=2&dg=1)

ヤクーツク航空、関空ーウラジオストク、チャーター便、5年ぶりに再開

ヤクーツク航空は13日、関西空港とロシア沿海地方のウラジオストクを結ぶ国際チャーター便を5年ぶりに再開した。今月に限って運航し、27日までの火・土曜日に往復する。

関空ーウラジオストク便は2001年からウラジオストク航空が夏季ダイヤで運航していたが、08年に運休。しかし、12年のアジア太平洋経済協力会議(APEC)開催をきっかけに道路などが整備され、シベリア鉄道の乗車体験などができるツアー需要も狙えると、東京都の観光会社が、直行便の運航を決めた。

(読売新聞)7/14

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/osaka/news/20130714-OYT8T00089.htm> (-> [http://www.yomiuri.co.jp/e-](http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/osaka/news/20130714-OYT8T00089.htm)

[japan/osaka/news/20130714-OYT8T00089.htm](http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/osaka/news/20130714-OYT8T00089.htm))

HAC、6月実績、平均搭乗率54.1%

北海道エアシステム(HAC)はこのほど、2013年6月(単月速報値)の旅客輸送実績を発表した。

	旅客数	前年比	L/F
丘珠ー釧路	3,842人	139.0%	48.5%
丘珠ー函館	6,938人	102.9%	60.1%
丘珠ー奥尻	788人	140.2%	36.5%
丘珠ー利尻	1,310人	121.3%	60.6%
総計	12,903人	96.2%	54.1%

(日刊航空)7/16

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(HAC プレスリリース)7/1

https://www.info.hac-air.co.jp/common/pdf/press_130701.pdf (-> https://www.info.hac-air.co.jp/common/pdf/press_130701.pdf)

エアアジアX(LCC)CEO、日本への増便・新路線就航を計画、数週間以内に発表

(ASIAXによると)

エアアジアXのアズラン・オスマン・ラニ最高経営責任者(CEO)は、クアラルンプール(KL)から日本への既存路線の増便と、新路線の就航を計画していると明らかにした。詳細については数週間以内に発表すると述べた。

エアアジアXは現在、KL~成田線を毎日、KL~関西線を週4回運航している。アズランCEOは、親会社のエアアジアが全日本空輸と共同で出資しているエアアジア・ジャパンの共同事業を10月末に解消することについて、エアアジアXに

とり日本が主要なマーケットであることには変わらないとした上で、同社への影響はないと述べた。

(ASIAX)7/15

<http://www.asiax.biz/news/2013/07/15-100623.php> (-> <http://www.asiax.biz/news/2013/07/15-100623.php>)

アジアナ航空、機種変更時のパイロット訓練を強化へ

(ロイターによると)

アジアナ航空は15日、新機種へ変更するパイロットの訓練を強化すると発表した。米サンフランシスコ国際空港での着陸失敗事故を受けての措置の一環。

サンフランシスコで6日に起きた事故では、ボーイング777型機を訓練中のパイロットが機長席に、隣には教官役を務めるのが初めての副操縦士が座っていた。米運輸安全委員会(NTSB)によると、両者ともベテランだが、一緒に働いたのは初めてだった。

今までは、ボーイング777型機での訓練を終わらせるには、飛行数が10回と飛行時間が60時間必要とされていた。

(ロイター)7/15

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0FL29Q20130715> (->

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0FL29Q20130715>)

セブ・パシフィック(LCC)、ハノイ・広州線を増便、今秋

セブ・パシフィック航空は、10月から11月にかけて、マニラとベトナムのハノイ、中国の広州を結ぶ路線で増便することを明らかにした。ベトナムと中国からフィリピンを訪れる観光客は増加しており、その誘致に対応する。スターなどが伝えた。

キャンディス・イヨグ副社長によると、現在、週2便を運航しているマニラーハノイでは、10月13日から同3便に増便。同路線で直行便を運航している航空会社は、セブ航空のみ。

一方、週3便を運航するマニラ-広州路線では、11月2日から週4便に増便する。

(NNA ASIA)7/16

<http://news.nna.jp/free/news/20130716php011A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130716php011A.html>)

ボーイング787関連: 航空機用救命無線機を調査

ロンドンのヒースロー空港でエチオピア航空のボーイング787型機が発火した問題で、関係筋は15日、ハネウェル・インターナショナル製の航空機用救命無線機(ELT)が原因となった可能性があるとして当局が調査していることを明らかにした。

通報装置は787型機胴体の後方上部に装着されており、事故機のテレビ映像に映し出された2カ所の焼けた部分の大きな方の中心部に位置している。

この通報装置は、あらゆる大きさの航空機に広く使用されており、今年初めに問題化したリチウム・イオン電池と比べると安定性の高いリチウム・マンガン電池を動力に使っている。

これに先立ち、ハネウェルは英航空事故調査局(AAIB)が中心になって行っている調査に参加するよう要請を受けたことを明らかにし、技術専門家を現地に派遣したと表明した。その上で、現段階で発火原因を推測することは時期尚早との見解を示し、分析・調査結果を踏まえて結論を導くと述べた。

(ロイター)7/16

<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPTJE96E03L20130715> (->

<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPTJE96E03L20130715>)

(WSJ)7/16

http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887324802804578608282078689580.html?mod=googlenews_wsja (->
http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887324802804578608282078689580.html?mod=googlenews_wsja)